

第45回 栄村総合文化祭開催!!

10月14日 栄村小中合同音楽会



先生たちや来場者含めての合唱もありました。
日頃の成果がよく発揮された素敵な会となりました!

公民館報

さかえ

第355号

令和5年11月1日発行

- 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1
- 電話
0269-87-2100
- 編集
栄村公民館報編集委員会

10月15日 45回記念のど自慢大会・みんなのステージ



特別賞のたけ&まさ

のど自慢



最優秀賞の広瀬智佳子さん



みんなのステージ

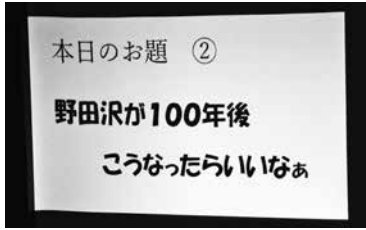


今回の司会はラジオ関係の仕事をしている久保田明澄さんと、二十歳代表の山田眞士くんの2人が行いました！
のど自慢のゲストとしても華麗なピアノ演奏と歌声を披露して頂きました。

フリーマーケットや4年ぶりのチャリティーバザーも大盛況となりました。
役場での作品展示は11月6日(月)までです。土日も開場しておりますので開催中にぜひお越しください。

集落ワークショップ

〜未来の集落への想いを出してみよう〜



自分が暮らす集落への想いは格別で、みなさん大好きですね。「集落がいつまでも続いてほしいし、このままではいけないような気がする。何かしなくちゃいけない：想いはあるけど：どうしていいのかわからない：」多くの方と話をしてみると個々ではこうした思いを持つている方がたくさんいることがわかり、とてもうれしくなりました。「そうだよな、まだまだやれることが山ほどあって、栄村の集落が存続する可能性は充分あるじゃないか」とワクワクするのです。

今まで集落に暮らすみんな、おばあさん、おじいさん、お母さん、お父さん、お姉ちゃん、お兄ちゃん。子どもからお年寄りまでのみんなの想いを聞いたことがありますか？想いを出したことがありますか？この集落に暮らしてこんなことが好き、気に入って

るんだ、これが自慢、など、いいところを前面に出してみるところから始めましょう。集落の歴史や歩みを年配者から聞き取りしておくことも大事なことです。そして将来の集落の姿に想いを馳せてみましょう。それも自分で見ることでできない遠い150年〜300年先の集落の姿を。

その一歩を踏み出すキッカケ作りが集落ワークショップです。まずはみんなの想いを出してみよう。いくつかの集落でやっています。集落ワークショップ、栄村公民館は応援しますよ。



野田沢でのワークショップの様子

公民館講座開催！

「村誌を読み解く～仙当城編～」



- 日 時：11月12日(日) 午前9時～12時
- 場 所：月岡公民館・仙当城
- 講 師：栄村誌執筆員 遠藤公洋氏
- 申し込み：栄村教育委員会事務局 ☎87-3118

※実際に仙当城跡まで徒歩で行きますので、動きやすい服装でご参加いただくとともに、飲み物をご用意ください。
座学1時間、現地2時間の予定です。

地域史料保全有志の会の活動が再開しています！

2011年の震災時より救出した文化財の保全活動を行ってくださっている、地域史料保全有志の会（代表：白水智先生）の活動が再開しています。今年はずすでに5月のゴールデンウィークや、8月にも活動がありました。11月も以下のとおり活動がありますので、皆さまぜひ気軽にこらっせにお越しください。

- 文献班活動（古文書目録採りなど）
10月31日(火)～11月3日(金・祝)
※古文書を読んだことのない方でも興味あればぜひお越しください。
- 考古班活動（土器の整理など）
11月15日(水)～17日(金)
場所：どちらも栄村歴史文化館 こらっせ



おらどこの「宝」の知識を深めよう

おら村の宝!

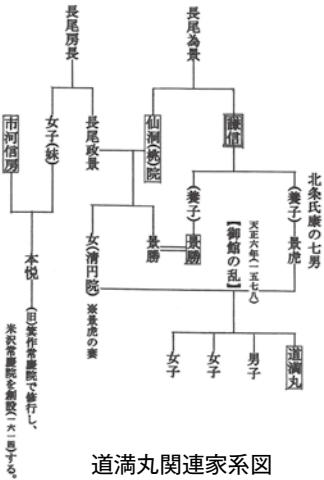
その8

「上杉謙信の孫、道満丸伝説を探る
～常慶院と仙当城」その①

このお話は戦国時代、上杉謙信のお孫さんにあたる道満丸が月岡にあった旧常慶院(元寺)にかくまわれ、月岡の油屋の娘と結婚し、仙当城の城主になったのではないかというお話です。

① **なぜ、かくまわれたのか?**

上杉謙信は熱心な毘沙門天信者で出家し結婚せず、2人の養子(a景虎―北条氏康の七男。b景勝―謙信の姉・仙桃院の長男)を迎えますが後継者を決めないまま、49歳で突然亡くなります。すると越後を二分する跡目争い(御館の乱)が起きて景勝派が勝ち歴史上景虎一族は惨殺されたとされています。道満丸は、景虎の長男で、仙桃院の娘が景虎に嫁いでいるので、仙桃院の実孫にあた



参考文献：月岡 恵(1991)「信越国境の秘められた伝承」『津南学第8号』PP 56―71

ります。そんなわけで、仙桃院が当時9歳のかわいい孫をかくまったのではと考えられています。

② **なぜ栄村にかくまったのか**

当時栄村を治めていた市河氏は甲斐(山梨)の出身で武田氏側でしたが、仙桃院の義妹を妻に迎えていました。そのため、上杉氏とは親戚関係にあたります。旧常慶院は市河氏の菩提寺でもあり、小坊主が大勢いた修行寺でしたので、その中に潜ませていたのでしょうか。

常慶院の言い伝えでは、かつて上杉の大切な人を預かり、多額の養育費をいただいていたそうです。戦国時代の寺院は石垣や堀で囲った堅固な城づくりであったようで、旧常慶院(元寺)は今も百合居温泉の山際に大きな石垣などが残っています。次回は道満丸と月岡や仙当城との関係を書きます。(文責：中沢謙吾)

おらどこの「宝」の知識を深めよう

おら村の宝!

その9

森 文殊菩薩像

千曲川沿いの集落で一番古い石の仏像を知っていますか?

森の神社の横の現在(ほんじつ)は広場になっている場所にある文殊菩薩像(もんじゅぼさつぞう)です。なんと貞享3年(1686)に造られたものです。西暦で言うと1686年。今から337年前のものになります。ち

ょうど生類憐みの令を出した徳川綱吉の時代です。とても古いですね!

なぜそのころの石仏が年号が確認できる状態で残っているかという、これまでずっと



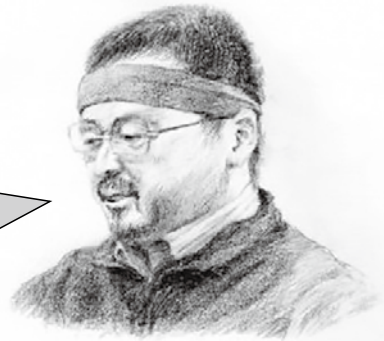
屋内で保管されていたからだとのこと。2011年の地震で建物が壊れ現在は建物があつた広場に安置されています。

文殊菩薩は「知恵」の仏様とされており、「三人寄れば文殊の知恵」という言葉の元にもなっています。受験や試験の前に参拝すればもしかしたら助けてくれるかもしれないですね。村の中でも他にいない仏様なので、337年前に知恵が必要な一大事が何かあつたのでしょうか。謎を解くのも面白いですね。

なんにせよ、村で一番古い仏像です。集落の皆様にも大切に守られながら、仏様にも見守っていた大きながら、これからも残っていると良いですね。

『元文五年の村定法 その4』

あーそんなことがあったんか
〜ど先生の栄村昔語り〜 其の五十九



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称：ど先生)
イラスト作成：佐藤洋平

夏の酷暑が過ぎ、朝晩は冷え込むようになりました。夏の間は暑熱や風水害での不作が盛んに報じられましたが、秋に入っ

て減収も思ったより抑えられ、全国的には平年並みに落ち着いたようです。酷暑は去りましたが、今度は熊の被害が連日のように報じられ、村内でも熊が人を襲つた事件があったと聞いています。自然とせめぎ合う多端な年です。

をあげてみます。

一、毎年昼休仕候共、四月十五日

より七月十五日迄堅取極メ農業

大切ニ可仕候事

(毎年昼休みをするとしても、四月十五日から七月十五日までは厳重に定めて農業を大切にすること。)

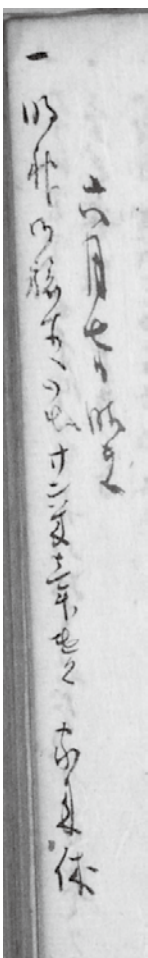
昼休みといえば、現代の私たちも日常的に昼休憩を取っていますが、近世社会では「昼休み」の意味がだいぶ違っていました。これは労働日と休日の在り方に関係しています。現代の休日は土・日曜日と祝日で構成されており、祝日は国法と条例の規定により、特定の日を休日にするものと定められています。また土・日曜日は明治九年(一八七六)の太政官達により「一六日」を廃止して日曜日と土曜日午後を休暇にすると決められて以来、官公庁や役場、学校などが業務を行わない日となり、現代に継承されています。いっぽうで労働を休む日という意味での休日は労働法規の規定に拠る部分があり、カレンダーの休日と必ずしも一致せずに行われています。この点は

近世も同様で、節句や祭礼・祭祀など村の祝祭で作業を休む日と、田植え休みなど休息のための休日とがあり、あわせて「遊日」と呼ばれていました。前述の「一六日」は月に六か日あり、年間七十二日が休日、さらに盆暮れ正月や五節句などが加わると明治以前は八〇日以上の日がある計算(現代は一〇五日以上)になります。地方村落での実際の「遊日」はだいたい年間三〇日程度で、地域差もありました。

近世の百姓の経営単位は、時代を追って複合大家族経営から夫婦と子供あるいは祖父母で構成される小家族経営へと細分化して行きますが、人力と畜力しかない時代、「まき田植え」のように小家族同士で協力する必要があります。また堰や道普請、前回みた盗難除けの監視、獣害除けの夜番など村単位の共同作業もあり、誰かが勝手に休んでは成り立たない社会でもありました。そこで、村が「遊日」を決め、主に祭礼祭祀や節句の日取りによって休日としました。しかし時代とともに祭礼が新しく始まったり(例えば箕作村では

一八世紀前半から中後期にかけ、天王祭が村の行事に加わり、農業技術の進歩で旧来の「遊日」と実際の作業の節目(農休日になることが多い)が合わないことも生じてきます。そうした事情で一般的に村落の「遊日」が増加する傾向にありました。

その対策の一つが「昼休」です。「遊日」であっても早朝から午前中は働き午後からは休みにする、あるいは朝と夕方に働き昼間は作業を休む、また祭礼日も朝の内は働き午後から祭礼というように半日休みが行われ、「昼休」と呼んでいたようです。栄村域では近世の農事日記が見付かっていないので四月十五日がどのよ



延享二年の日記より。6月7日天王祭の日は家来も休みとなる。

栄村公民館 図書室だより

..... 2023.11

どんどん寒くなってもうストーブをつけるのが当たり前になってきましたね。雪の心配をするところになるといよいよ村内移動図書が始まります。今年は11月30日からスタートし、来年3月までたくさんの本を積んで村内を巡りますので、栄村ならではの『読書の冬』をお楽しみください。

今の図書室は…



入口のテーマコーナーは過去の書店員の投票だけで選ばれる【本屋大賞】受賞作品です。

「本屋大賞」は、新刊書の書店（オンライン書店も含みます）で働く書店員の投票で決定するものです。過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。また「本屋大賞」は発掘部門も設けます。この「発掘部門」は既刊本市場の活性化を狙ったもので、過去に出版された本のなかで、時代を超えて残る本や、今読み返しても面白いと書店員が思った本を選びます。(NPO本屋大賞ホームページより)



寝ながら読書や、病院の待合室で読むには小さな文庫本を!!

図書室内には文庫本だけの棚が2つあります。

布団に入ってからの読書や、かばんに入れておけば病院などで待つ時間を埋めるのにピッタリです。作者別、ジャンル別に分かれていますのでお目当ての本も見つけやすくなっています。

一般的に先に単行本が発売され、その後に文庫本が出ますので、加筆修正や新たな解説が加わることもあります。単行本とはまた違った楽しみ方もありますよ。



★図書ボランティア募集中!★

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。読書の習慣もできますよ。栄村在住の成人している方ならどなたでもできます。1~2か月に1度の当番です。お問い合わせは栄村教育委員会事務局 ☎87-3118までお願いします。

★栄村図書室開放時間★

平日 午前8時半~午後5時
土・日 午前9時~正午
※祝日は休館します

★休館日のお知らせ★

11月3日(金)~11月5日(日)
12月23日(土)~12月24日(日)
12月29日(金)~1月3日(水)

★お知らせ★

返却していない本をお持ちの方はなるべく早くお返しく下さい。諸事情で図書室に来られない方は連絡してください。(☎87-3118)



月岡瑞輝さんは写真左から4番目です

月岡瑞輝さん（白鳥）

私はさかえ卓球クラブで指導員をしています。子どもたちが今まで打ち返せなかったボールが打てるようになる姿を見るとうれしく思います。刺激を受けながら、子どもたちに負けず腕を磨きたいと思います。今月25日(土)には栄中体育館で栄村卓球大会を開催します。昨年は泣く泣く中止となり、今年こそは！と思っています。練習は毎週水曜日、栄中体育館です。一緒に卓球しませんか！

村民広場

おおきくな〜れ



大きくなったら役場の人になりたい！

ひろと
大翔さん（6歳）

好奇心旺盛で、気になることは何でも聞きたがる“なぜなぜ星人”です（笑）これからもいろんな事を吸収しながら、周りをよく見て、人の痛みがわかる優しい子になってほしいです。 月岡夏美さん宅（白鳥）



**集落支援員
活動を進めています**

5月より活動を開始し、公民館長と一緒に村をまわって女衆のお茶飲みにお邪魔させていただいたり、手芸や料理作り等の集まりの場を見学させていただいたりしました。いろいろなお話を聞く中で、気さくに村の暮らしの事や集落の好きなどころ等を教えていただき、集落の現状等を聞き整理する機会ともなっています。それを通して、住んでいる方たちの集落や村に対する思いを感じています。

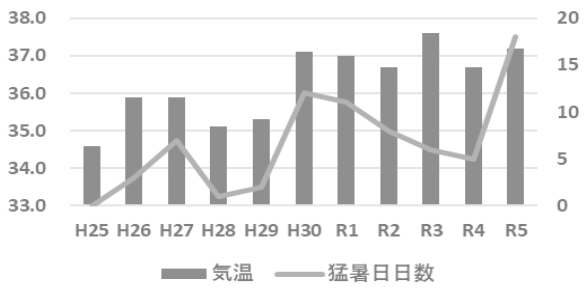
また、村づくりに関わる役場のほかの部署や委託先の皆さんとも連携して集落めぐりを行い、様々な視点から村を知る機会を作っています。今後はこの活動にプラスし、子育て世代の親たちを中心に「栄村がこんな風になったら楽しいよね」といった話が自由にできる機会を作り、これからも村で「いきいきと楽しく暮らし続けていく」ためにどうしていきたいか、皆で考えるきっかけづくりをしていきたいとも考えています。（長田ちなみ）

今年の夏は暑かった

今年の夏は最高気温が37.2℃、猛暑日（日の最高気温が35度以上）は18日もありました。この10年の中でも1番多いです。特に8月は全日真夏日（日の最高気温30度以上）、平均気温は35度でした。やはり温暖化でしょうか。

猛暑のせいかわかたA米も例年より少なかったと編集委員会の話題に上がりました。

最高気温と猛暑日日数



絵本『アオのぬくもり』 寄贈いただきました

小滝出身内田きみさんの著書『アオのぬくもり』が、今年9月ほおすき書籍より出版されました。前作『アオや』に続き2作目となります。小滝にいた馬「アオ」の物語です。



きみさんは小さい頃父親からいろいろな話、特に動物に関する話を多く聴いたそうです。60才を過ぎてから創作童話の会に入り、そのことを元にして書いてこられました。今回は「アオがいかに利口だったか」を書かれたそうです。またアオは「ニーホホホ」と笑うんだと。

想像しながら読んでくださいね。

著者から本のプレゼントです。

『アオのぬくもり』 先着40名

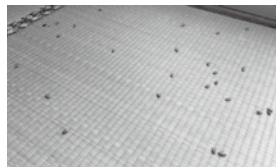
栄村公民館 こらっせでお渡しします。

ご希望の方は、こらっせにお越しください。

今年はカメムシが多いですね。夏の暑さのせいかわかた秋の寒さのせいかわかた何かわかた原因なのかわかりませんが、とにかく多い。せつかく業者に頼んで防除したのにあまり効かない。というような話も聞きます。

カメムシが多いと大雪になるという言い伝えがありますが、どうなることやら。穏やかな気候がよいですね。

ちなみに、細長いカメムシ（写真上）今年あまり見ない気がします。メスという話もありますが、「サシガメ」という別の種類だそうです。



ある編集委員の家

今月の一句 ~栄村俳句会~

誰か来よ氣高き月の今出て
急き足森を抜け出て星月夜

杉浦恵子

暖とりておでんぐつぐつ愚痴こぼす
松の茸山にわけ入るすべもなし

豊田久美

鎮守様祭りのあとの静けさや
柴犬の鼻に止まりし赤トンボ

山田邦江

ふり返りふり返りして散る枯葉
さつまいも土間の筵にねかされて

柳 静江

鴉田^{みつした}や鴉夫婦の一人占め
亀虫にふりまわされしひと日かな

関谷貞子

編集後記

先日の栄村総合文化祭には歌やお話、ダンスにお店等々沢山の方々が表現されていらつしやいました。私も音響セラピーとして野外イベントには初めての参加でした。自分が信じていることを、お伝えし体感してもらええる機会を得られたこと心より感謝しています。SNSでの表現もありますが、顔と顔を合わせ発表できる貴重な場で、来年も、いつものあのひとや、はじめましてのこのひと、そのひと、ひとりひとりが主人公を自由に表現し、楽しんでほしいなと思います。